



こどもの国から

創刊号



「こどもの国から」創刊にあたって

戸田市長
菅原文仁

みなさん、こんにちは。この度「こどもの国」を地域の方々により広く、深く知っていただくために、季刊広報誌「こどもの国から」を創刊することになりました。

「こどもの国」は、平成27年に児童センター、保育所、学童保育室、児童用プールを併設した複合施設としてリニューアルし、地域の皆様の支えのもと毎年18万人を超える多くの方にご利用いただいています。

私は、子どもは未来への大きな可能性を秘めた存在であり、子どもたちがのびのびと健やかに育つためには、日々の生活や遊び、交流や学びを支える場（空間）がとても大事だと考えています。この季刊広報誌を通して、「こどもの国」の魅力をいっぱいお届けしますので、ぜひみなさまのご利用をお待ちしております。

秋のイベントのご報告

秋のお楽しみ会

9月23日（日）秋のお楽しみ会を開催致しました。2階軽体育室では、「秋のスポーツラリー」と題して4種目（サッカー/バレー/バスケット/テニス）のスポーツに200名以上の子供達が参加しました。

保護者の方々と力を合わせ、初めての競技に元気よくチャレンジ。ゴールを決める度に大きな歓声が沸き起こりました。全種目参加者はパーフェクト賞を受け取り、笑顔が溢れる一日となりました。



●参加者の声



・はじめてやった！
・ゴールしてうれしかった！
・楽しかった！



・テニスが本格的！
・スポーツへ興味が生まれた
・インスタ映えする！

●イベント担当より

たくさんの子供たちにご参加頂き、ありがとうございました。各スポーツは、元テニススクールコーチを含め競技経験者が担当し、幼児も楽しめるよう、内容や道具を工夫致しました。

秋のイベントのご報告

文化講演会：11月4日（日）

前年、好評を博した尾木直樹先生に続き、今年度は講師に齋藤孝先生をお迎えしました。「やる気を引き出すコミュニケーション力」をテーマに熱弁を奮われました。子育ての指針となるお話に多くの方の賛同を得ました。



写真提供：草思社



熱気に溢れる会場の様子

●参加者の声

- ・ 子育てに関して前向きな気持ちになりました。子どもと一緒に好きなことを見つけ、集中して取り組めるようサポートしていきます。
- ・ 知(知識)/仁(豊かな心)/勇(勇敢な気持ち/身体)のバランスのとれた成長の大切さを再認識しました。
- ・ 子どもの個性を尊重し、いいところを伸ばしていくために、もっと視点を広げてほめてあげたいと思います。
- ・ 子どもを取り巻く環境が大きく変化している中、自分の考え方を押し付けるのではなく、子どもの目線に立って対峙していきます。
- ・ 今回の講演は子育てに限らず、社会生活を行う上で重要な要素が多く含まれていました。子どもにも直接聞かせてあげたかった。
- ・ テレビの印象よりも、気さくでユーモアのある齋藤先生のお話に魅了されました。熱烈なファンになりました。

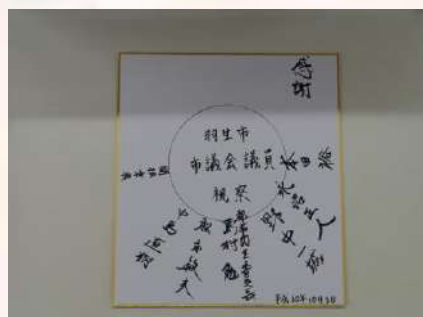
●イベント担当より

著書「声に出して読みたい日本語」で日本語ブームを巻き起こした齋藤先生。私はタイトルに惹かれ「不機嫌は罪である」を読破。図書コーナーに置いてますので皆様もご一読下さい。

視察団をお迎えして

羽生市議会：10月3日（水）

毎年多くの地域から視察の申し入れがあります。今回は羽生市議会より6名の市会議員の方々が訪問されました。児童センター設立に向けた検討を重ねられており、活発な意見交換の場となりました。



・内容

プレゼンテーション/討議

- ①施設概要の説明
- ②運営実態の報告
- ③これまでの成果
- ④今後の展開

施設見学

●羽生市会議員視察後の感想より

児童センターの充実した施設と利用者の要望に対応する工夫された講座内容に驚きました。戸田市と羽生市は世代別構成や人口密集度が異なり、地域特性と住民の声を反映した子育て支援を目指します。

関東若手市議会議員の会：10月22日（月）

今回は関東若手市議会議員の会（関東ブロック：1都7県で約200名の会員が所属）より13名の市会議員の方々が訪問されました。子育て支援に関して、各々の地域の状況を踏まえた多くの質問を頂きました。



●関東若手市議会議員視察後の感想より

戸田市に子育て世代が集まる理由がわかりました。都心への好アクセスや補助手当等の手厚いサポートに加え、住人が快適で居心地のいいソフト面の充実が、人口増に寄与していると実感しました。